

百聞は一見にしかず

創価学会は、総本山大石寺を「大謗法の地」と誹謗しています。創価学会員の皆さんは、大石寺について「野犬がうるついている」「ペンペン草が生えている」などと聞かされたことがありますか？

あるいはあなた自身がそう思い込んでいませんか？
事実は全く違います。
特に近年は、御影堂の大改修・五重塔の修復が行われ、さらに、宗祖日蓮大聖人御聖誕八百年を記念して、三門の大改修ならびに総本山の総合的な整備が完了し、いよいよ御成壇様まします霊場としての偉容が増しています。

「百聞は一見にしかず」です。一日も早く創価学会を脱会し、登山させていただきます。

戸田城聖
創価学会2代会長指導

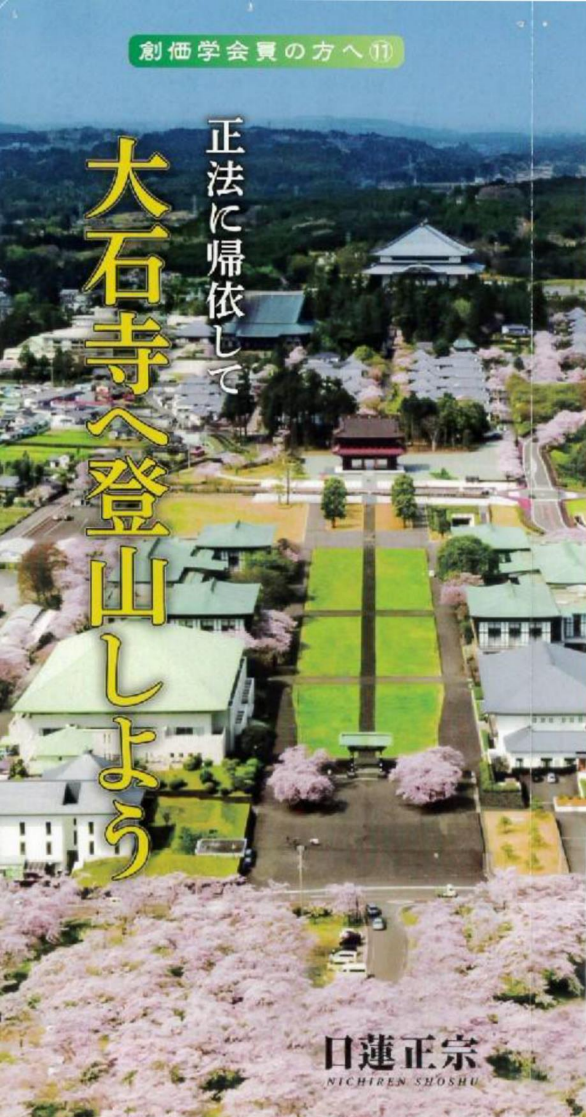
「なんといっても、御本山（大石寺）に登り、親しく大御本尊様を拝まなくては、本物の信心になれない」
（戸田城聖全集 三一四九〇頁）
「御法主上人猊下をとおして大御本尊を拝しますれば、かならず功德がでてくる」（同四一三九九頁）

過去の指導との矛盾を正当化しようとするのは詭弁です。
正直な信心で功德善根を積みましょう。



大日蓮出版
1冊 330円

正法に帰依して
大石寺へ登山しよう



日蓮正宗
NICHIREN SHOSHU

大石寺は功德の根源

総本山大石寺は、功德の源である本門戒壇の大御本尊がまします根本霊場です。また大石寺には、日蓮大聖人の法脈を継承される御法主上人が住まわれ、大御本尊を厳護し、一切衆生救済と世界平和を日々に御祈念されています。

大聖人が、登山の功德について、

「無始の罪障も定めて今生一世に消滅すべきか」（御書二五〇二頁）

と仰せのように、私たちは大石寺に登山参詣し、御法主上人教導のもと御開扉を受けることによつて、過去遠々劫よりの謗法罪障を必ず消滅し、成仏を遂げることができます。

創価学会は大御本尊を捨てた団体

ところが創価学会は、平成二十六年に大聖人出世の本懐たる本門戒壇の大御本尊への信仰を放棄（聖教新聞「平成二十六年十一月八日付」）したことで、さらに大きな謗法を犯すこととなりました。それでも、創価学会員の皆さんの中には「大石寺に行かなくても、心で大御本尊を信じて修行、問題をしているからいい」という方が、大勢いるのではないのでしょうか。

しかし、大謗法の団体となった創価学会に籍を置いて、創価学会の信仰をどれだけ実践しても、大聖人の信仰の根幹である唯授一人の血脈と本門戒壇の大御本尊への尊崇を捨ててしまつては功德がないばかりか、謗法に与同して罪障を積み重ねることになります。

大石寺奉安堂と御影堂



あなたの心に大御本尊への尊崇の念が少しでも残っているのなら、ぜひ勇気を出して日蓮正宗寺院にご相談ください。
一日も早く創価学会を脱会し、正しく大聖人の信仰が実践できることを心から願ってやみません。

そして、宗祖日蓮大聖人御聖誕八百年を迎えた今こそ、法華講員とともに大石寺へ登山し、真の御報恩の誠を果たしてまいります。



大石寺三門